第21回東京都廃棄物審議会

速 記 録

日 時：平成31年3月27日（水）10:00～12:00

場 所：東京都庁第二本庁舎 31階 特別会議室27

○藤井計画課長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから第21回「東京都廃棄物審議会」を始めさせていただく前に、私、事務局を務めさせていただいてございます、環境局資源循環推進部計画課長の藤井でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方には、お忙しいところをお集まりいただきまして、御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

まず、資料確認でございます。これまでペーパーレスで開催しておりましたが、都庁でもなかなか会議が立て込んでございまして端末の手配がかなわず、紙での資料配付という形にさせていただきました。

式次第から始まります会議資料をつづつてございますが、本日の資料1、資料2、資料3、資料4がつづられている資料が一つでございます。

その下に参考資料を2つ添えさせていただいています。

参考資料1は、先日の審議会総会で御了承いただきました「中間まとめ」でございます。

その下、参考資料2でございます。これは、国の中央環境審議会の3月26日付の答申案でございます。「プラスチック資源循環戦略の在り方について」ということでございます。

あと、お手元には座席表と、委員の皆様には、中間まとめで募集したパブリックコメントで寄せられた意見の原文をそのままつけさせていただいてございます。

資料に過不足はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

本日の委員の皆様方の出欠状況について、御案内させていただきます。

本審議会の委員総数は22名の方でいらっしゃいます。大石委員、岡山委員、金丸委員、細田委員、並木委員につきましては、本日御都合により御欠席と伺ってございます。このほか杉浦委員と蟹江委員がおくれていらっしゃると伺っているところでございます。この後いらっしゃる予定でございます。

ただいま御出席いただいています委員の方は、15名いらっしゃるということでございまして、総数22の過半数に達してございますので、定足数を満たしていることを御報告させていただきます。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

今後の議事進行につきましては、安井会長によりよろしくお願いいたします。

○安井会長 皆様、おはようございます。

それでは、本日の議事に入りたいと思います。

今、お手元でございますけれども、1月8日に開催されました第20回「東京都廃棄物審議会」で、「プラスチックの持続可能な利用に向けた施策のあり方」の中間取りまとめ案をおつくりいただきまして、その後、皆様の意見を反映させました中間取りまとめを私の責任においてつくらせていただいたものでございます。

それに基づきまして、パブリックコメントを実施いたしまして、本日御紹介することになっております。

まず、事務局から中間まとめに対しましてのパブリックコメントにつきまして、御報告をいただきたいと思います。その後で、皆様に御意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○古澤資源循環推進専門課長 事務局の資源循環推進専門課長の古澤でございます。

私のほうから、パブリックコメントで寄せていただきました御意見について御報告をさせていただきます。

資料2に基づきまして、御報告をさせていただきたいと思います。また、委員の皆様の机上には、実際にいただいたペーパーをそのままコピーして、置かせていただいておりますので、随時御参照いただければと思います。

それでは、資料2をご覧ください。A4横のペーパーでございます。

パブリックコメントの実施期間は、今年の1月17日から2月15日までの1カ月ということでございます。17名の方からパブリックコメントを寄せていただきました。そのうち個人の方が8名、組織・団体の方が9団体ということでございます。

それを以下の表のように整理をさせていただきました。もちろんパブリックコメントでいただいた皆様からの意見は、中間まとめのどこの箇所と特定をされた御意見もありますし、そうでない御意見もございましたので、事務局のほうで、これは中間まとめのこの場所に関わるのではないのかということも含めて、整理をさせていただいております。

それでは、順に御報告をしてみたいと思います。

まず、現状と課題に関わるものと思われるものが幾つかございます。

1つは「『CO2実質ゼロは直ちに達成できるわけではないが、そこを目指してプラスチックなどの資源利用のあり方を見直していく必要がある』については、その通りである。パリ協定達成に向け、プラスチックの生産及び焼却において排出されるCO2も同様にすべき」という意見。

あるいは、それを具体化するために「神奈川県のごみゼロ宣言と同様、東京のごみゼロ宣言を全国に発表すべき」という御意見もいただいております。

右側のほうに（事務局整理案）ということで書かせていただいております。これは本日いろいろ御議論いただければと思っておりますので、本日の議論をいただいた上で、どう整理するかというのを決めていくということになろうと思います。

まず、1点目の御指摘ですけれども、CO2実質ゼロについてどうやって目指していくかについては、これまで中間まとめに至る過程でいろいろ御議論があった上で、現在の中間まとめのような表現になってきているものと事務局としては受けとめております。こういった御意見があったことを踏まえてどうするかについて、もし修正の必要があれば御議論いただければと思っております。

2つ目の御意見、東京のごみゼロ宣言ということにつきましては、当審議会からいただきました答申に基づいて、どういうやり方で出していくのかを含めて、都として今後の施策に当たって、参考とすべきとさせていただいております。

次の海洋プラスチック問題に関わるということでございますけれども、1つは国際的な議論・データが示されているが、対策を実際に策定するに当たっては、どのように陸域から出ているのか、データ等の実態の把握が必要だと。こういう定量的裏づけに基づいて、情報発信をしていくべきだという御意見でございます。

2つ目の御意見も、散乱ごみ、マイクロプラスチックの環境存在の実態把握をして、そういう説得力のあるデータで普及啓発をしていくべきであるという御指摘でございます。

さらにめくっていただきまして、2ページ目もそこをしっかりと押さえるべきだということ。

4点目も都内の陸域からどう出ているのか、散乱ごみの発生状況など、関連データが必要というところがございます。こちらにつきましては、都内の散乱ごみを把握して、そこからどういうルートで流れていくのかということにつきましては、調査手法も含めて非常にテクニカルに検討をしていく必要があると考えております。都で直ちに結論が出る話でもないと思いますし、都において今後の施策の検討に当たって、こういうことにしっかり取り組んで参考としていくべきだとさせていただいております。

次の「先進国の主要都市として東京が果たすべき役割」でございます。中間まとめの6ページに図と表を載せてございます。

東京の資源利用が域外の資源に大きく依存しているというところに関してです。このページに載せてあります都内排出量やフットプリントの表について、「内容を読みとることが難しく、読み手にわかりにくい。広く読まれ、理解を得る資料とするためにも、データの表現を工夫すべきである」という御指摘をいただいております。

これについては、確かに非常に難しく、わかりにくいというところの御指摘もそのとおりだと思いますので、一旦表を削除した上で、今後ちゃんとわかりやすい表記、あるいはデータ等について工夫をしていくという整理でいかかと思っております。

その下「21世紀半ばに目指すべき資源利用の姿」というところがございます。7ページのところにつきましては、これまで中間まとめをまとめていただく段階でも、非常にいろいろな議論をいただいたというところがございます。その上で、現在のような表現になっています。

ここの表現は、前回の審議会のときにいろいろ議論をいただいた上で固まったというところであったと思います。さらにそれに加えて、こちらの2ページにありますような意見をいただいたところがございます。

「CO2実質ゼロに向けて、長期的にエネルギーや各種資源の利用のあり方を大きく変革していく必要がある。化石燃料由来のプラスチックについても、その必要性を見きわめ、使用すべきものを整理する等によって化石燃料への依存度を低減し、省エネルギー・省資源に資する『持続可能な、価値ある素材』としていく必要がある」という表現で、正確に書いていったほうがいいのではないかという御指摘であろうと思います。

あわせて、13ページの表の部分も「化石燃料への依存度を低減し、省エネルギー・省資源に資する『持続可能な、価値ある素材』としていく」の「『持続可能な、価値ある素材』としていく」という表現を、この中間まとめのときにも「おわりに」の部分で、最終的なまとめという形で入っておりますので、そこがこういったところに明確になるようにという御趣旨もあるのかなと思っております。そういう意味では、この御指摘をいただいたように表現を修正してはどうかと考えております。

次のページをご覧ください。3ページ目でございます。

これも同じ箇所なのですが、これについて、修正の御意見をもう一ついただいております。「CO2実質ゼロのプラスチック資源利用について、時間的には、1.5℃未満に気温上昇を抑えるために、世界のCO2排出量を2030年前後に2010年比で45%減、2050年前後には実質ゼロとするように、できるところから直ちに実行に移す」とすべきであって、プラスチックごみの焼却処理はやめるべきだという御指摘でございます。

こちらにつきましても、中間まとめに至る過程でCO2実質ゼロの性格についていろいろ御

議論いただいたものだと考えております。プラスチックごみの焼却処理の扱い、熱回収の扱いについても、いろいろ御議論がこれまであったというところで現状になっていると理解をしておりますので、改めてもし御指摘があれば御議論いただければと思います。

同じページにバイオマス資源に関して記載がございますけれども、そこでは、食料と競合するものもあって、飢餓に影響を与えないということもちゃんと配慮すべきだという御指摘をいただいております。この御指摘はそのとおりだと思います。「食料との競合」というところをここに追記をして、入れていったらどうかと考えております。

その次の御指摘でございます。これまで国外に輸出していた150万トン分のプラスチックの商品に関して早急に削減して、2030年までに使い捨てプラスチック使用の削減50%以上を目指すということを目指すべきだと。あわせて国に対しても、具体的目標設定のために積極的に働きかけを行うべきだと御意見をいただいております。

国のプラスチック資源循環戦略につきましては、先ほど御紹介がありましたとおり、昨日、中央環境審議会の循環型社会部会のほうから環境大臣に答申がされてございます。その中では、これまでの議論の中でワンウェイ・プラスチック25%削減ということで書かれているところがございます。御指摘の50%削減ですけれども、これについてどうするかも御議論いただければと思いますが、まず25%削減に向けた取り組みを開始した上で、さらなる削減という議論をしていくべきという考え方ではないかなと考えてございます。

4点目「当面、都が目指すべきプラスチック対策」というところでございます。

こちらについては、その上の意見と同じ流れなのですが、「今後5年間の目標だけでなく、長期的に化石燃料由来のワンウェイプラスチックのゼロを目指す旨を明記」という趣旨で、持続可能な利用に向けて第一歩を踏み出さなければならないという表現は削除すべきだという御指摘でございます。これにつきましても、これまでの議論の中で行われてきたものかなと考えてございます。

おめくりいただきまして、4ページのところ、レジ袋の有料化でございます。環境に配慮しなければ損をするというシステムづくりが必要なのではないかとという御意見で、レジ袋の有料化は現実的な案だという御指摘をいただいております。これは、中間まとめでもそういう趣旨で盛り込んでいることだと理解をしております。

それから、有料化はもちろん、お店のほうでお客さんからレジ袋に入れてほしいと言われるまでは、レジ袋には入れないということは効果があるということの御指摘もいただいております。この辺は今後審議会の御議論を踏まえまして、東京都のほうで実際に販売事業者の皆さんといろいろな取り組みをさらに進めていく上で、参考にしていくという整理でいかがかなと思っております。

その下「レジ袋以外のワンウェイのプラスチック製容器包装について」というところでございます。

無償で提供するシステムをなくして、提供側のコスト、実際に働く人の手間の削減になるような施策がいいのではないかと。あるいは給水器を設置、広報を強化して、市民の間でのマイボトル使用を定着させていくことで、結果としてペットボトルの使用量削減が期待できるという御指摘をいただいております。

ペットボトルについて、デポジットリファンドの制度を国に働きかけるべき、レジ袋以外のワンウェイのものについて条例化すべきという御指摘もいただいております。

さらに、市民への働きかけですとか、ライフスタイルの転換についてコメントが抽象的で、もっと具体的な事例を明記すべきであるという御指摘をいただいております。このあたりにつきましては、今後当審議会においても、さらに具体策について議論していこうという整理になっていますので、こういう意見を参考にしていくという方向がよろしいのではないかと考えております。

5 ページ目、バイオマスプラスチックの利用の関連でございます。バイオマスプラスチックの利用について、現在約4万トンにとどまっており、急速な代替の促進は素材調達等の面で難しいというところがあり、経済性、持続可能性に加え、関連する事業者の対応可能性も考慮すべきだという御指摘でございます。この件につきましては、当審議会の議論の中でも、現在こういう状況だという御指摘もあり、我々もそのように関係の事業者の皆さんからは承っております。国のプラスチック資源循環戦略で200万トンみたいな数字が出ているわけですが、関係事業者の対応可能性を考慮というのは、全くそのとおりだと思いますので、修正を入れてはどうかと考えてございます。

プラスチック製バッグを植物由来の素材にする。バイオマスにするということについては、結局地球の大事な資源を減らすことに変わりはないという御指摘でございます。

これにつきましては、先ほどもバイオマスのところの表現がございましたけれども、中間まとめはまさにそういった趣旨でまとめていただいていると考えてございます。

東京都の物品調達において、不要なものを購入しないというだけではなくて、必要なものであっても、プラスチック素材のものは購入しないようにすべきだという御意見もいただいております。この辺は東京都の物品調達のグリーン購入の実際の中身に関わることでございますので、こういう意見があったことも含めて、今後の施策の検討に都として参考にしていくべきだとしてございます。

プラスチックごみを油に変えて、再利用するという装置を開発されたという方から、これがプラスチックごみの問題解決につながるという御指摘をいただいております。個々の技術につきましても、都が今後の検討に当たって参考とすべきだろうと考えております。

その下でございます。「容器包装リサイクル法等によるリサイクルの徹底」というところでございます。容器包装リサイクルのその他プラの完全実施は全国で7割だけれども、東京の場合、特に23区はわずか5割だということがありまして、ごみの多い東京だからこそ3Rの優先順位を改めて再確認をしていくべきだという御指摘でございます。これにつきましても、都が今後の施策を検討していく上に当たって、区市町村の皆さんとも含めて参考にしていくべきと整理をしてございます。

その下、11ページの「容器包装リサイクル法等によるリサイクルの徹底」に関してなのですが、製品プラスチックが対象になっていないということで、改正またはプラスチック規制法の制定を国に求めていくべきだという御意見をいただいております。これに関しましても、今後国に求めていく要望等の具体的内容につきまして、さらに当審議会で議論をしていくということになっておりますので、その段階で参考にしていってはどうかと考えております。

次のページ「事業者による効率的な回収の仕組みの構築支援」の項目につきましては、パブリックコメントの中では特に意見をいただけないと理解をしております。

「事業系（業務系・商業系）廃プラスチックのリサイクル」につきましては、これまで

東京都がやってきたような事業者と行政の協働による新たな仕組みづくりに乗り出して、国内循環の具体的先鞭をつけてほしいという御指摘をいただいております。中間まとめを高く評価し、期待していますということでございました。具体的な事業者と行政の協働による新たな仕組みづくり等について、まさに都が今後の施策の検討に当たって参考にすべき内容かと考えてございます。

その下に熱回収に関する意見を幾つかいただきました。

まず、1点目が自治体のごみ焼却炉で焼却した場合には、エネルギーが15%しか回収できないのでやめるべきだという御指摘。

その下に焼却を伴う熱回収は最終手段であるべきだと。12ページにありますように熱回収等を最適に組み合わせ、バランスを考慮し、推進をしていくべきという表現では不十分だということをごさしまして、あくまで最終的な手段として熱回収というプロセスである旨を明記すべきだという御指摘でございます。

その下も同様でございます。「熱回収」はプラスチック資源としての再利用を目指す材料リサイクルと根本的に異なって、欧州などではリサイクルとはみなされていませんと。熱回収は最後の手段と位置づけるべきだということで、石油由来のプラスチックを燃やすことはパリ協定の理念とも矛盾、そして、日本の姿勢とも矛盾するという御指摘でございます。

これらの点につきましては、まさに中間まとめに至る過程でさまざまな角度から当審議会の中で議論をいただいていた項目だろうと思っております。中間まとめのままでいかどうかについても含めて御議論いただければと思います。

都のホームページの記載内容と違いがあって、サーマルリサイクルに関する都のスタンスがわかりにくいという御指摘もありました。これにつきましては、都のホームページでどういうふうに書いていくかというのも審議会の御議論を踏まえて、都が実際に直していく話かなと思っております。

熱回収について、「費用対効果を踏まえつつ」「バランスを考慮しつつ」という記載がございますけれども、どの程度で費用対効果を見るのかとか、バランスがとれているかという具体的な判断については、当審議会の趣旨は総合的に判断してという趣旨だろうと思っております。それをどうするのかというのは今後の具体の施策の検討に当たって、参考とすべき御指摘かなと思っております。

また、熱回収に関する記述について、どうも言いわけ的で、煙に巻くような作文技法だという御指摘もいただいております。これも先ほどお話ししましたように、同様に中間まとめに至る過程でいろいろな議論を踏まえて、現在のような表現になっているものと理解をしております。

散乱防止・清掃活動を通じた海ごみ発生抑制に関する御意見も幾つかいただいております。

人間はプラスチックの管理ができないので、管理できないものは使わないようにすべきだ、減プラスチックを推進すべきだという意見につきましては、今回の中間まとめに至る過程で、ワンウェイ・プラスチックの削減という論点について議論してきたところだと考えてございます。

散乱ごみ対策について、国や都、自治体等が回収・管理・処理を適切に行うことが必要。

これにつきましては、当然各道路管理者等が法的な責任を負っているところも当然でございます。そういった部分も含めて、都が施策の検討の実施に当たって検討すべき事項だろうと考えてございます。

ポイ捨てに関してですが、一般消費者のモラル、一般消費者に対する啓発活動について言及されていないと。一般消費者や来日する外国人に対しての啓発活動を具体的にどのようにしていくのか、今後、具体策を立案・実行するようにはしていただきたいという御趣旨でございまして、これも都の今後の具体策に関する御意見と理解をしております。

区市町村が設置する公衆用ごみ容器でございます。ごみのポイ捨てや散乱防止に非常に有効であるということで、設置を検討してほしいという御意見でございます。

また、その下も関係する御意見かと思えます。「東京2020大会では、誰でも分別・回収に貢献できるように公衆用ごみ容器を増設する等、ごみの散乱防止対策を検討していくべき」という御指摘でございます。

12ページのところでは、これについて両方の議論があるというところを紹介した上で、意見があったのですが、さらに最後に「今後、社会的に議論していく必要がある」という文言をつけ加えさせていただくという形でどうかと思っております。もちろん東京2020大会では、さまざまな形でごみの散乱防止も含めて対策をとっていくという方向であると考えております。

8ページをご覧ください。「『東京からライフスタイルの変革を起こす』ことを世界に発信し、レガシーとすべき」ということで、これも東京2020大会ということでございます。まさにこういった方向で東京都といたしましても、組織委員会と連携をして取り組んでまいりたいと考えております。

「施策の推進にあたって」の関連でございます。

環境学習等々に関してなのですが、これについては、プラスチックの持続可能な利用のあり方、持続可能性に配慮したライフスタイルについて、消費者、生徒・児童にわかりやすく情報を発信していくという部分につきまして、NGOや学会と連携して教育を実施すべきで、その際には、費用を都が負担すべきだという御指摘をいただいております。

我々も既にNGOの皆さん、あるいは専門家の皆さんも含めて一緒にいろいろ議論をさせていただき、こういうところに御協力もいただいで進めてきておるところでございます。今後の施策の検討に当たっても、この方向を参考にしてまいりたいと思っております。

「おわりに」の部分につきましては、プラスチックに過度な利便性を求めた反省が書かれていないと。人間が管理できないプラスチックは使用すべきではなく、社会は大転換すべきだという御意見でございます。これにつきましては、利便性のところも含めて中間まとめに至る過程で議論があり、さらにワンウェイ・プラスチックの削減について御議論いただいできたところだと考えてございます。

「『グローバルな正義』は話を盛りすぎではないか」という御指摘もいただいております。また、これも中間まとめに至る過程で気候正義に関する御指摘やSDGsに関するさまざまな御議論をやってきているということでの正義だと考えてございます。

「その他」は、まずウレタン材質のマイクロカプセルの海洋への流出を防ぐための対策を検討すべきだという御意見、マイクロカプセルを使用している製品の使用自粛を呼びかけるべきだと。

9 ページも同様でございます。柔軟剤や洗濯洗剤に使用される香料を包んでいるマイクロカプセルのことも取り上げるべきだという御指摘。

一次マイクロプラスチックと申しますのは、今、紹介した御指摘にありましたような香料が入っているマイクロカプセルでございますとか、マイクロビーズというものが入ってくると思いますが、こういった一次マイクロプラスチックについての海洋流出後の回収は事実上困難なので、これに関する施策を入れるべきだと。「マイクロプラスチックとなる製品の自粛を広く都民に呼びかけるべき」というのも同様の御指摘だと考えてございます。

さらに、人工芝の破片、レジンペレットが公共用水域に流出しないように指導すべきで、レジンペレットの流出防止の対策のための条例化を図るべきだという御指摘をいただいております。

これらの今御紹介しましたような論点につきましては、もちろん重要な御指摘で、対応すべき課題と考えておりますが、当審議会で使い捨てプラスチックの削減、あるいはプラスチックのリユース、リサイクルということでこれまで御議論いただいてきておまして、そういった趣旨で諮問をさせていただいているというところもでございます。議論の性格として、ちょっとそこには当てはまらないのではないかなと考えてございます。

安価なプラスチック製品を消費者が購入して、1 回使って捨ててしまうとか、あるいはそういった前提で企業のサービス提供が行われているというところもプラスチックごみの原因だと。具体的にどういう啓発を行っていくのかを考えて実行していただきたいということで、これも都として、具体的に政策を進めるに当たっての御指摘と受けとめております。

最後に、リユースカップに関しての御提案もいただいております。「日本では、まだまだリユースカップが普及していない」ということで、東京スタジアム等でリユースカップを導入するというところで、東京都のリーダーシップに期待したいということでございます。

ワンウェイ容器の削減についての記載を中間まとめでもしてございますので、その関連で9 ページの最終行に「イベント等におけるワンウェイ容器の削減を進めるため、リユースカップの普及を図るべきである」という記載を追加してはどうかと整理をさせていただいております。

以上でございます。

○安井会長 ありがとうございます。一応御報告をいただきました。

それでは、今の事務局からの御説明に関しまして、パブリックコメントでこういったことが書かれたわけでございますけれども、皆様からの御意見、御質問等々ございましたら名札を立てていただきたいと思っております。

早速でございます。松野委員、お願いします。

○松野委員 まずは、パブコメ対応御苦労さまでした。

今回の答申で、プラスチックの持続可能な利用に向けて御議論してきた次第ですが、大きく2つの対応として、パリ協定対応と海洋プラスチックごみの対応、その両者に効果的なものを盛り込んできた次第だと理解しております。

パブコメにも8 ページ、9 ページにありますように、マイクロビーズの問題は海洋プラスチックだけの話だと思うのですが、今回の範囲外ということで切り捨ててしまうのはど

うかなというところもありまして、今回は要らないかもしれませんが、「いずれは検討すべき課題と認識」と一言ぐらいあってもいいかもしれません。コメントです。

○安井会長 ありがとうございます。

なかなかどういうふうに影響しているかが難しい問題があるので、まだ確実に取り上げるというところまで行かなくても量的にはいいのですけれども、いずれにしても、今の意見はよろしいかと思いますが、ほかに何かございますか。

まだ検討する時間が必要でしょうか。

それでは、コメントに対するコメントを少し差し上げますと、配付資料の3ページにIPCCが昨年10月8日勧告で発表したシナリオについてのことが書いてございますが、これは本当に難しい話なのですけれども、そもそもIPCCが1.5°Cにしろと言ったというのは全くの誤解です。IPCCというのはそういうことを言わない組織なのです。ですから1.5°Cをやろうとすると、もしも自主的にというか何と言っても難しいのですけれども、CO₂の排出量を全く別の方法で下げていかない限り、最終的にはこんなことになるよというシナリオを書いてみせたということだとお考えいただかなくてはいけないと思いますので、IPCCが1.5°Cがいいと言ったわけではない。まさにIPCCというのは科学者の集合体でございますから、その科学者が科学的にこんなことが起きるのではないかと言っているということでございます。

具体的にはお読みになったかもしれませんが、実際に1.5°Cをやろうと思えば、確かにCO₂の排出量を大幅に別の方法で、例えば産業活力あたりを全部下げて、全く出さないようにするというのは不可能ではないですよ。満足できるか、経済が回るかどうかは全く別なのですけれども、そういうことでない限り今のような産業の活力のまま、もし1.5°Cを目指すとなるとどうなるかというシナリオが幾つか書かれていて、それだとBECCSと言いますが、Bio Energy CCSというものをやらなければいけない。

そもそもBECCSというものをどうやってやるかということが余りちゃんと書かれていないのです。BECCSというものは一体どうやってやるのかというと、まず木を全部切ります。その森林の木は別途使うわけなのですけれども、平地にして、それで何をやるかという植物としてエネルギー作物というのをやります。エネルギー作物というのは大体ミスカンサスというものが使われると大体考えられているのですけれども、それはススキであります。要するに、森林が全部ススキの野原になるということの意味なのです。それは非常に成長が早いですから、それを切り取って、燃やして出てきたCO₂を地面に埋めるというのがBio Energy CCSの実態であります。

ですから、もう今は『Nature』の『Communications』などで昨年8月ぐらいに出ているような論文もございますので、英語ですけれども読むことは可能ですが、そういう検討もいろいろなされておりまして、それをやっちゃいますと、大体2050年までにアフリカの森林が全部消えるのです。冗談ではないよというシナリオが書かれているのです。

ですから、1.5°Cというのはやれと言われたと思ってはいけません。それをやると、これまただめという、やり方によってはすごいという話が出ているということなのです。そういうふうには読まなければいけないのですけれども、なかなかそこまで原文までさかのぼってお読みになる時間はないと思いますので、一応御説明を申し上げます。

○古澤資源循環推進専門課長 今の御指摘につきましては、中間まとめのときにもそのあたりは正確に記載をしてございまして、中間まとめの3ページでございまして、1.5°C未満に

気温上昇を抑えるには、こういう必要があるということで「CO2実質ゼロは直ちに達成できるわけではないが」というところも含めて、いろいろ御議論をいただいてきたところかなと思いますので、そういう御趣旨で今のお話も受けとめさせていただいてよろしいでしょうか。

○安井会長 そう思います。

どこまで説明するかというのは本当に難しいので、今回はこのぐらいでよろしいかと。もし、どこかに環境局として知ってほしい雑学みたいなものを書く場所がありましたら、Bio Energy CCSというのは何かという話を書いていただくと、ありがたいかなという気がいたします。

ほかに御意見をいただければ。

どうぞ。

○福留委員 資料についての確認ですが、いただいたものは1月17日と書いてあるので、こちらは前回資料として出していただいたもので、今日パブコメの御説明をいただいたので、パブコメの結果を受けて、さらに書き直しがされるという理解でしょうか。

○安井会長 お願いします。

○藤井計画課長 1月17日に案をとっていただいて、パブリックコメントの募集のもとになったものを配付させていただきました。今、福留委員から御質問があったパブリックコメントを踏まえたものは本日は御用意させていただいていないのですが、今後の御議論の中の間答申という形で、都のほうにいただくものを御用意いただく際の議論になるのかなと思ってございます。中間まとめのパブリックコメントの意見を踏まえて、この審議会でも御議論いただいた内容を中間答申という形で、都のほうに後日いただければなと思ってるところでございます。なので、本日はパブリックコメントの前の資料しかお示ししてございません。

○安井会長 そのあたりの確認が不十分で済みませんが、そういうことでございまして、今配付されました1月17日のものにとって、パブリックコメントが来た。このパブコメに関してお読みいただいて、御意見をいただいて、それでさらなる1月17日バージョンのバージョンアップが必要である部分はどこかという御議論をこれからさせていただくということでございます。

それでは、上がっております。蟹江委員、よろしく申し上げます。

○蟹江委員 ありがとうございます。

SDGsの話が前半のところに結構書かれているのですが、2ページのところの図にもありますが、一番大事なのは、これをやることで経済的にも持続可能になるという点だと思うのです。5ページのところにゴール12で、持続可能な消費及び生産等々のことが書いてありますが、同時に目標で言うと8のところ、経済成長とディーセント・ワークのところですが、そこにも同じように経済と環境のデカップリングが大事だということが書かれているので、そここのところも触れておく必要があるのではないかなという気がしています。

環境の話なのだけれども、環境ではなくて経済にも大事だということか、経済を持続的に成長していくために、プラスチックの問題も対策をとる必要があるというメッセージをしっかりと出しておいたほうがいいのではないかなと思います。

○安井会長 確かにおっしゃるとおり、プラスチックといっても、今ここで議論しているのはどちらかというところ、ワンウェイで終わってしまうプラスチックだけなのですけれども、例えばこれを見たらプラスチックでできているのですよね。これはメタルでできていないですよ。こういうものを全部メタルに戻すというのは多分あり得ないですよ。ですから、そういうあたりまでを含めた感覚をやはり持たなければいけないのかなという、廃棄物ですけれども、これも廃棄物になりますよね。しかも、これをリサイクルするとなるとちょっと難しいなという気がいたしますから、それはどうなっていくのだろうかというあたりの視野まで持たないと本当はいけないなと思っております。

そういうわけで、鬼沢委員、お願いします。

○鬼沢委員 事務局整理案で事務局に確認なのですが、都が今後施策の検討に当たって考慮すべきということと、当審議会の議論として参考にするのとあるのですけれども、その違いとか、どういうふうに生かされるのかを先にお聞きしたいなと思いました。

○安井会長 お願いします。

○古澤資源循環推進専門課長 まず、今後の当審議会の議論の参考というところにつきましては、中間答申をいただきました後、かねてから御議論をいただいております。さらに具体策のところについて御議論をいただく上で、こういったパブリックコメントで寄せられた御意見についても、審議の中で参考にしていただければという趣旨で書かせていただいております。

それ以外の（都が今後の施策の検討にあたって参考とすべき）という形で仮に書かせていただいておりますものは、これらの項目につきましては、審議会で御議論いただくというよりも審議会での御議論の方向を踏まえて、都が具体策を実施していく段階で参考にするような内容ではないだろうかという趣旨で書かせていただいております。

○安井会長 よろしゅうございましょうか。

そういうこととございまして、厳密な区別は難しいのですけれども、もちろんそれもしゃべってくれ、議論しろということもあり得ると思えます。

佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 いろいろな意見をまとめていただいたと思います。改めて国のプラスチック戦略との比較を見ると、国のプラスチック戦略の2ページの最後のところで、プラスチックリサイクルの経済合理性、雇用創出、イノベーション解決のために必要だという点があると思います。つまり、雑巾を絞るようなやり方では解決していかないと思うのです。

東京都の場合には、巨大な消費地であると同時に日本の主要な企業の本社機能を持っている会社がたくさんあります。グローバルに企業活動を展開している会社が多いことを考えると、東京都の新しい中間まとめの14ページですけれども、「施策の推進にあたって」という配慮の中でイノベーションとか、雇用の創出、経済合理性というものを東京都としても推進していくという大きな方針があってもいいのではないかなと思えました。

以上です。

○安井会長 環境局として、それをどこまで書くかというのは恐らく微妙なので、そのあたりで事務局から適切な判断をいただけるとありがたいと思うわけでございます。後でもよろしいと思えますけれども、そういう御指摘は非常に貴重だと思いますのでよろしくお願いします。

よろしゅうございますか。

それでは、プラスチック工業連盟から。

○日本プラスチック工業連盟 ありがとうございます。

参考までに、ちょっと気になった点で、いただいたパブリックコメントです。資料3ページ目の上から3つ目のポツなのですけれども、国外に輸出していた150万トンのプラスチックの消費に関しては早急に削減すべきと。これは使用済みプラスチックのことを言われているのだと思うのです。それで事務局の案として、括弧書きながら「更なる削減についても検討すべき」となっているのですけれども、ここはプラスチック製品の使用を150万トン削減したからといって、今まで中国とかに輸出していた廃プラスチックがそのまますぼっとなくなるわけでは決してないのであって、この話もいかにうまくリサイクル、再生するかということで、実際に今まで中国が海外から使用済みプラスチックを輸入して、また再生材、ペレットにして輸出していた。この業界が非常に困っていて、今、日本にも結構そういうところが進出してきて、汚いところは確かに除いて、ちゃんとリサイクルできる部分を再生材として中国に持っていく。あるいは日本もしっかりしたリサイクラーの方たちはきっちり分別されたものを入手して、それをうまく国内循環しようとしているので、ここは単に使用削減だけではなくて、いかに使用済みプラスチックを再生材として循環していくかという視点も入れていただければと思います。

以上です。

○安井会長 いかがでしょうか。

おっしゃるとおりでありまして、150万トンが全部どうなっていたかというわけではありません。ただ、日本の場合だとどうですかね、これというのはどのぐらいの人件費の割合がある産業になるのかという問題もあって、中国以外だとできないなんて話もないではないなという気がします、どう書くかはちょっと検討させていただけたらと思います。

米谷委員、お願いします。

○米谷委員 事務局整理案に関してなのですが、これはこのままパブコメに対する回答という形でこの文章が載るというイメージなのでしょうか。

○古澤資源循環推進専門課長 そうではございません。本日パブリックコメントでいただいた御意見に関しまして、委員の先生方から御指摘をいただいた上で、個別の項目についてどういう方向にするのか、どこまで中間まとめの修正に反映させるのかということをお議論いただいた上で、もちろん中には反映の対象にならないものもあると思いますし、そういった部分も含めまして、丁寧な御説明をしっかりと書いていくものをお示ししたいと思っております。

○米谷委員 わかりました。そういうことであれば安心いたしました。

最近、私は国のパブコメでも、木で鼻をくくったような回答が非常に多いというのが大変気になっておりますので、もっと丁寧な回答をしていただけるということであれば、それで結構です。よろしく願いいたします。

○古澤資源循環推進専門課長 パブリックコメントでは、委員の皆様のお手元にあるとおり皆さんから大変熱心に御意見をいただいておりますので、そこはしっかり事実関係の御説明も含めて、丁寧な御説明ができるような案文を用意したいと思います。その前提として、どういう方向で整理するかについて御議論いただければと思います。

○米谷委員 ありがとうございます。

○安井会長 そういうことだそうでございます。

それでは、ほかに何かございませんでしょうか。よろしゅうございますか。あとは何かあるかな。

多分、これはまだ御意見があるのではないかと思って、ちょっと時間をつなぎますけれども、この間パリに行きまして、最近東京あるいは日本ではない動きがヨーロッパあたりで出ているというのをちょっと感じました。

例のイエローベストのデモにぶつかりまして、あれは土曜日だったのですけれども、金曜日には別のデモがあつて、それがスウェーデンの女子高校生がイニシアチブをとった例の若者のデモなのです。要するに、今の子供のことを考えて君たちはやっているのかというデモ。これが今かなりヨーロッパを席卷しているような気分でございまして、日本はまだ起きていませんけれども、それが始まると、はっきり言って将来世代が自分たちの将来を大人がぶっ壊しているということに対して、我々はどう答えるかという新たな記述が必要になってくるのです。

そこを考えると、今回はそういった精神も若干盛り込んだほうがいいかなと。これはパブコメと関係がないですけれども、そんな気もし始めておりまして、はっきり言って持続可能性というのは私の年の連中の人間などはどうでもいいので、そういうものではない10代の若者の意見というものも若干反映をさせないと本当はいけないのかなという気が強くなります。

あれはヨーロッパあたりでの影響が非常に大きいです。子供に言われてしまうと大人はなかなか答えられないという状況になりかかっている気がいたしますので、それを含めて将来世代に対して、若干配慮したような記述というのをちゃんとすべきかなと思ってパリに行つておりました。それをどうするかというのは考えさせていただかなくてはいいのですけれども、まだ具体的に考えているわけではないのです。

何か御感想でもあれば、伺えればと思ひますが、最近のヨーロッパというかパリはその2つのデモで大変なことになっております。

どうぞ。

○田崎委員 今のことで一点事実誤認があり、3月15日に日本でもやっていますし、その前にも少なくとも1回やっていますので、日本でも学生、大学生を中心とした動きがある状況です。次世代のことというキーワードを入れていくというのは、私はまさしくよいことだと思つております。けれども、まず若者に対する位置関係、今まではどちらかといえど教育する、情報を教えるみたいな感じなのですが、むしろ彼らのほうが本当にやるべきことを理解していて教わる部分も結構ある。もう少し対等な形で活動をしていかないといけないという点は、マインドチェンジをしないといけないなと思つております。

以上です。

○安井会長 ちょうど15日は日本にいなかったので全然ニュースを知らないのですけれども、そういうことだったのですね、日本でもあつたのですね。

ほかに何かございますか。

佐藤委員、どうぞ。

○佐藤委員 今のお話もありましたので、「おわりに」のところの「今後、国のプラスチ

ック資源循環戦略も踏まえつつ」とあるのですが、国際動向も踏まえる必要があると思います。国だけではなく、国際動向あるいは次世代への配慮も含め視野を広くして、具体的な施策を進めていくということが必要ではないかなと思います。

○安井会長 おっしゃるとおりでございまして、どういう言葉がいいかは少し検討させていただきたいと思います。ただ、先ほどの話もございましたけれども、だからといって、今となつては経済を無視するというわけにもいかないのです、どのぐらいそれとのバランスをとるのかという話にどうしてもなってしまうのですが、そのあたりをどううまく表現できるかですね。

山崎委員、お願いいたします。

○山崎委員 このパブコメの中の「施策の推進にあたって」というところで、「消費者や生徒・児童に分かりやすく情報を発信し」というところですが、「NGOや学会と連携して教育を実施すべき」と。こういうNGOや学会の力というのは大きな力があるのかもしれないけれども、教育全体に関しては十分行き届かないです。だからこういったことは、東京都の教育委員会あるいは区市町村の教育委員会が先頭に立って子供たちを教育していかないと、こういう施策をいろいろ行うに当たっても2年や3年で成就するわけではなくて、10年、20年、30年かかりますよ。それには、やはり小さい子供のときからのしっかりとした教育を施していくと、子供たちは一生懸命やることによって大人になっていく。その子供がまたそれをまねしてよくなっていくと思うのです。

うちの区も「カーボンマイナスこどもアクション」といって、小学校46校の5～6年生が競争してカーボンマイナスをやっているのです。そういう競争をすることによって、子供が一生懸命やるとおじいちゃん、おばあちゃんもまねをするという結果が出てきておりまして、そういった意味で環境局だけではなくて、教育委員会も具体的に先頭に立って、そうしたいことを子供たちにしっかりと教えていかないと、これは何年たつたってうまくいきません。子供のときからしっかりと教育するということを学会あるいはNGOが全体的にできるかというとなかなかできません。そういった意味では、教育委員会も巻き込まなくては絶対にだめだと私は思っているのです。そういったことも参考にさせていただきたいと思います。

○安井会長 ありがとうございます。

どう書くかを検討させていただきたいと思います。

どうぞ、佐藤委員。

○佐藤委員 五月雨式で済みません。

今の14ページの「パートナーシップの構築」のところなのですが、都民、NGO、リサイクル業者を含む関係事業者と続いているのですが、環境配慮設計が一番重要ですので、ここは製造者、小売業者、リサイクル業者と明確にして、製造者や小売業者が主体的なパートナーシップを組むべきだということを明確にしたほうが良いと思いました。

○安井会長 ありがとうございます。検討課題だと思います。

あとは何かございますか。

どうぞ、米谷委員。

○米谷委員 パブコメということではないのですが、個人の感想のような形になりますが、先ほど来の子供たちの教育というのは全くおっしゃるとおりだと思っております。

ただ、子供たちに幾ら教育しても、その子供たちの見本となるべき大人がいい加減な行動をとっては大変よろしくないのかなという気がしております。そういった意味では、資料7ページのところに書いてありますけれども、ポイ捨てに関しては一般消費者のモラルの問題なのだが、そのことに関してほとんど言及されていないという言葉が私は非常に気になりました。

委員だけに配られた資料の最初のところにタリーズの例が書かれていますけれども、これはいいほうの例で書かれています。私もタリーズをよく利用するのですが、ここでいつも気になるのが使い捨てのものを洗わずに捨てる形になってしまっていて、洗いたくても流しもないのです。非常にじくじたる思いをしながらそれを捨てるということがありまして、せめてそういったカフェなどでは全員に強制することはできなくても、心ある人はちゃんと洗えるように、そうであれば洗ったものは洗ったもので分別するという形で出すことによって、少しでもリサイクルをしやすくなるといった地道なところからの取り組みなどもできるというのを日ごろから思っております。

パブコメと直接関係ありませんけれども、意見、感想でございます。

○安井会長 ありがとうございます。

福留委員、お願いします。

○福留委員 パブコメの7ページのところの6)の東京2020大会を機としたというところに書かれているのですが、今、都心部を見ていてごみの散乱がむしろ広がっているのかなと思います。今回のプラスチックの使い方に関する議論においては、いかに回収・分別して、できれば洗浄のところも使った人に協力してもらうかというあたりが鍵になってきます。現在、非常にインバウンドの観光客なども増えている中、他方で回収するためのごみ箱は減っているという状況です。どうやったら分別をしながら公衆ごみ容器を増やすことができるか、或いは、ごみ容器をいたずらに増やすと、非常に物流も含めて回収が大変になっている現状があるので、そこをどうやったらできるかといったところも知恵を出して、施策にしていく必要があるのではないかと思います。

○安井会長 ありがとうございます。

これもなかなか行政にとっては難題ですね。

どうぞ。

○杉浦委員 今のごみの収集のバスケットの問題なのですが、うちは全部取り払っています。なぜかという子供たちが勝手に捨てていたり、大人が自分の家のごみを捨てていってしまうからです。どうしようもなくなって、ごみの山になってしまって、全部回収するのをやめました。自分の家で回収してくださいというお願いに変えたわけです。そんなものがずっとあるのです。

行政にとってごみというのは非常に大きな問題でして、先ほど会長もおっしゃっていましたが、プラスチックイコール悪ではないと私は思っています。衛生環境を保つためとか、医療関係のところではプラスチックが非常に有効だからです。そういうものもありますので、皆さんがおっしゃっているように、手近なところで一体何ができるのかを真剣に考えさせることが一番大事だと思います。先ほど山崎委員もおっしゃっていましたが、子供たちも含めて、そういうところをきちんと議論していく。そういうところがとても大事だと思います。

以上です。

○安井会長 ありがとうございます。

これはまた表現を考えなくてははいけませんね。

どうぞ。

○山崎委員 今の件で質問ですが、駅もそうですし、いろいろな施設で治安対策の面からごみ箱を置かないようにしているのですよ。町をきれいにするにはごみ箱があってもいいという意見もありますけれども、都、環境局として、他局の治安対策本部なのか、警視庁なのかは分かりませんが、そういったところとの調整、意見のすり合わせというのはしていますか。それはどちらが正しいのか、なくすほうがいいのか、それをはっきりしないと、今みたいな議論がいろいろまとまらなくなってしまいます。

○古澤資源循環推進専門課長 今の公衆用ごみ容器の関係でございます。これにつきましては、中間まとめの12ページのところで記載をいただきました。これまでも御議論があるところですが、これは基本的には区市町村で御判断をされて、公衆用ごみ容器をつくっていらっしゃると思いますが、今御指摘のように治安の問題ですとか、あるいは散乱をしてしまうのではないかと、さまざまなことを考えなければいけない課題だと考えてございます。

当審議会の中でも、必ずしもこの方向でということではなくて、これまでも両論が出てきたと考えております。オリパラに向けてどう対応していくのかということも当然考えていかなければならないのですが、その後も含めて東京都内の町の中の公衆用ごみ容器がどうあるべきかについて、直ちに結論が出せる状況ではないと考えます。それもありまして今回は、今後社会的に議論していくべきという整理がよろしいのではないかとということで御提案させていただいております。

○安井会長 これというのは、本当に言うと個人の問題なので、その個人の問題であるという認識を持ってから自治体等がやらなくてははいけない問題だと思うのですよね。それが無いところになってくると個人の問題かな。これは本当に難しい問題ですけれども、どう書くかというのが本当に悩ましいところだと思います。

ほかに何かございますか。

どうぞ。

○戸部委員 杉浦委員に質問なのですけれども、今言われたごみ箱というのは分別回収か何かのごみ箱ですか。そうではなくて、公共のごみ置き場というところですか。

○杉浦委員 はい。

○戸部委員 わかりました。分別回収かと思いました。

分別回収でも、最近自分の家の前に置かれるのが嫌だというのがすごく多いのです。各区の担当者の方もそれで非常に困っています。散乱するというのがこのところ本当に目立ってきたなという感覚はあります。

以上です。

○安井会長 どうぞ、杉浦委員。

○杉浦委員 今の関係でございましてけれども、私の行政体では戸別収集なのです。1カ所で集めるのはやめると。お金がかかっても各戸を回って集めていくという方式にしています。責任を持ってもらうということです。

以上です。

○戸部委員 ありがとうございます。

○安井会長 お願いします。

○日本プラスチック工業連盟 散乱ごみ防止について、この答申の文章をどうしてくれということではありませんが、コメントさせていただきます。今後の啓発活動とかをする上で、ポイ捨てだけではなくて、ポイ捨てる人はごく一部だと思うのですけれども、自分たちのごみをきっちり管理しないことが散乱ごみになっていることを御存じない方が結構多いと。例えばペットボトルの回収ボックスなどにもほかのごみを入れていたり、あるいはあふれているのにその脇へ置いていたりとか、そういったものがやはり風で飛ばされてごみになるということなのです。

実はもう2年前になると思うのですけれども、都内のあるグループは環境活動、エコライフを目指すような活動をやっていて、特に散乱ごみについて特化したグループではないのですが、そこに呼ばれて海洋プラスチックの問題を講演した後、フリーディスカッションしたときに参加した方から町を歩いているとプラスチックの容器包装のごみが落ちていて非常に気になると。でも、ごみ箱がないと。自分はそれを拾って持って帰ってくれるのだなと思ったら、みんなは拾うと植え込みの下に突っ込んでいきますとか、結構環境意識の高い方でもそういった意識の方が多い。

我々も2年前に全国レベルの意識調査をやったときに、街でポイ捨てしたごみが海ごみになると思いますか。今の御時世ですから7～8割の方がそう思うと答えるかなと思っていたら、実はそう思うという方が35%ぐらい、どちらかといえばそう思うも含めてやっと50%ぐらいです。日本人は半分ぐらいの方が海ごみは海外から来ると。あるいは海で遊んだ人が捨てるという意識レベルなので、自分たちのごみをきっちり管理しないと散乱ごみになるということを知っていただくことが大事だと思いますので、我々もあちらこちらで啓発をやって、そういうことを必ず言ってきていますので、ぜひ都としても、そういう機会があればそういう観点で取り上げていただければと思います。

以上です。

○安井会長 ありがとうございます。

江尻委員、お願いします。

○江尻委員 私が札を立てております間に、皆様が私の言いたいことを大方おっしゃっていただいたという状況なのですけれども、私は多摩地域におりますが、ごみの有料化が始まりましたから、またポイ捨ての話で申しわけないのですけれども、散乱ごみというのが多くなったのは実感としてあります。結局家で捨てるのであれば外でポイと捨ててしまおうというのを含め、駅のごみ箱に入れてしまったりとか、公園のごみ箱に入れてしまったりということはしないようにということで、ごみ箱を撤去したという事例はあちらこちらであると聞いています。これから23区のほうでは、恐らく有料化が始まるだろうと期待しているのですけれども、ぜひ始まりますときに多摩地域の事例を参考にさせていただきながら、ごみ箱については考えていただくとよいかなと思っております。

ごみが問題になり始めたころというのは、割合にポイ捨てとか散乱ということに関しても、いろいろな方たちが視点に上げて考えていたと思うのですが、今はそれが少し忘れられてしまって、分別であるとか、ごみ減量であるとか、物を買わないというところに視点

が置かれているわけですがけれども、今ここに来て、少し戻って、ごみをポイ捨てしない、ごみは自分できちんと処理をするのだというところがきちんと新たに出てくることによって、重量が軽くて、風に飛びやすいプラスチックが散乱しないというところまで行くのではないかなと思っております。

今の教育委員会と学校、小さな子供たちへの教育というお話が出てきまして、もちろん大賛成なのですがけれども、やはりNPOであるとか消費者団体の皆さんの力というものは非常に大きなものもあります。市区町村の方とお話しますと、啓発の仕方次第で次の策が出ないとおっしゃるのです。なので、ぜひそういったときにNPOや市民団体の皆さんの知恵をかりながら協働して、進めていってもらえるといいなと思っております。半分感想のようなものです。

以上です。

○安井会長 ありがとうございます。

そろそろやめなければいけない時間ですね。

事務局側から何かございましたら。

○古澤資源循環推進専門課長 今、委員の皆様方からいただいた御指摘に沿って、中間まとめの修正を行って、中間答申案を用意するのとあわせて、それからパブリックコメントの意見に対する対応につきましても御意見をいただきましたので、それを踏まえた整理をしていきたいと思っております。

まず、本文のほうなのですがけれども、今いただきました御指摘の中で申し上げますと、蟹江先生からSDGsの8番目、ゴール8についての記入を入れるべきだと。あわせて、佐藤先生からも経済についての記述を入れるべきだという御指摘をいただきましたので、そういった方向での案文を作成したいと思っております。

安井先生、田崎先生から次世代の若者たちのことということで御議論がありましたので、その表現を入れるというところも、どこに、どういう表現にするかの案文を作成させていただきますたいと思っております。

佐藤先生から「おわりに」のところ、やはり国際動向も踏まえということが必要ではないかという御指摘をいただきました。もちろん今は国際的な議論も進んでおりますし、バーゼル条約等も含めて議論がありますので、その辺も踏まえてという文言の追加。あるいはいろいろな関係事業者との連携の中で、リサイクル事業者を含むという前に製造事業者もという御指摘をいただきましたので、そういった御趣旨を入れた修正案を作成したいと思っております。

散乱ごみの問題については、いろいろな御意見をいただいたと思っております。公衆用ごみ容器の問題については先ほど申し上げたとおりでございますけれども、そのほかに普及啓発というところで、現在「ごみの散乱防止」と書いておりますが、ポイ捨ての禁止ということも含めて、もう少し表現を修正した案を作成したいと考えてございます。

パブリックコメントに対する対応のところに関しましては、山崎先生から東京都の教育委員会も含めて、教育委員会が先頭に立ってやる必要があるという御指摘をいただいております。そういった方向で都の施策として検討を進めていくということで記載をしたいと思っております。

さらに、松野先生からマイクロビーズ等々に関する対応につきましましては、これがきちん

と検討すべき課題として認識している趣旨で記載をすべきだという御指摘をいただきましたので、そのような方向でパブコメ対応の案文を作成したいと思います。

そして、パブコメ対応につきましては、全般的にしっかり丁寧な回答をとということで米谷先生から御指摘をいただきましたので、当然のことですが、そういう方向でしっかり整理した文章を作成したいと思っております。

そういった形で中間まとめの修正をして、中間答申案を作成すると同時にパブリックコメントに対する対応の整理をさせていただければと存じます。

○安井会長 ありがとうございます。

ただいまのような事務局の見解でございますが、最終的にできました対応文書に関しましては、再度皆様にお諮りする余裕がございませんので、私がチェックをさせていただくということによろしゅうございましょうか。

(「はい」と声あり)

○安井会長 それでは、御一任いただけたということにさせていただきます。

ありがとうございました。

以上をもちまして、最初の議題を終了させていただいて、次に参りたいと思っております。

それでは、続きまして、中間まとめに記述されました東京都のプラスチック関連施策の実施状況につきまして、事務局からの御報告をいただくというものが次でございますので、よろしく願いいたします。

○古澤資源循環推進専門課長 お手元の資料3をご覧ください。

こちらのほうに東京都のプラスチック関連施策の実施状況ということで、平成30年度に実施してまいりました事業、来年度予算案に盛り込んでおります事業について御説明をさせていただきます。

これまでいろいろいただきました議論、パブリックコメントへの対応で、東京都の施策の今後の参考にというところも含めて、実施に当たってしっかり御議論を踏まえた対応をしてみたいと考えております。

まず、中間まとめでいただきました項目の順番に申し上げますと、「ワンウェイのプラスチックの削減」の関連でございます。これについて、今年度はレジ袋有料化等に関する国への提案や、事業者の皆さんに御協力をいただいて、スーパーマーケット、店頭でレジ袋削減キャンペーンを実施したり、あるいはオフィスビルの中にありますコンビニに関して、オフィスビル側とコンビニ側の両方と協働するという形で連携をした普及啓発という取り組みもやってまいりました。さらにプラスチックストローに関しては、アイデアを募集する等の形で皆さんに考えていただくという対応もしてまいりました。

来年度につきましては、当然審議会の中間まとめで盛り込んでいただきました国への提案等についてしっかり行っていくということもあわせて、都におきましても、オフィスや大学等、その他いろいろな場面でワンウェイ・プラスチックの削減を図る普及啓発を実施してまいります。また、マスメディアと連携をしたシンポジウムに関しましても実施をして、広く訴えてまいりたいと考えております。

2点目が「再生プラスチック及びバイオマスの利用促進」の関係でございます。

平成30年度は都庁内の店舗の御協力をいただきまして、紙ストローのテストという形も行いました。平成31年度は都のグリーン購入ガイドの改定でございますとか、あるいはプ

プラスチック代替素材を活用した事業等についても検討してまいりたいと思っております。
次が「循環的利用の推進及び高度化」の関連でございます。

平成30年度に関しましては、店頭回収に関する廃棄物処理法上の扱いの整理につきましては後ほど御説明をさせていただきます。

もう一点、廃プラスチック緊急対策として、リサイクル市場の動向を把握し、関係事業者団体と情報共有につきましても、後ほど別紙で御説明をさせていただきます。

来年度につきましては、容器包装プラスチックの分別収集実施の区市町村への働きかけですとか、先ほどイノベーションというお話もありましたけれども、将来性あるプロジェクトの公募を選定して、新たなビジネスモデルの構築を支援していく。

テナントビル等に関して、規制の合理化の検討をしていく。

繁華街等で処理業者の皆さんが連携をして、効率的な回収をするモデル事業に取り組む。さらにプラスチック緊急対策に関しましては、引き続きリサイクル市場の動向を調査するとともに、排出企業の皆さんにも分別徹底等について呼びかけてまいりたいと考えてございます。

次のページでございます。

「散乱防止・清掃活動を通じた海ごみ発生抑制」につきましては、今年度小学生を対象とした環境教育のモデル事業、あるいはパネル展示、NGOの皆さんと連携した普及啓発等に取り組んでまいりました。引き続き来年度につきましても、動画作成でございますとか、回収体験イベント等に取り組んでまいりたいと思っております。

「国際的な連携」につきましては、平成30年度は5月に国際会議を開催しました上で、アジア各都市の実務担当者を招いて、プラスチックをテーマとした意見交換、情報共有を実施したところでございます。来年度は、引き続きアジアの諸都市と連携をいたしまして、ごみ発生抑制・ごみ散乱防止キャンペーン等を連携して実施することも含めて検討してまいりたいと思っておりますし、G20の参加国の都市によるU20メイヤーズサミットというのが5月に東京がホストとなって開催をする予定にしております。

さらに「東京2020大会を機とした取組」でございます。

平成30年度は組織委員会のほうで「持続可能性に配慮した運営計画第二版」という形でまとめられています。来年度はワンウェイ・プラスチックの削減に向けて、組織委員会に働きかけをするとともにリサイクルしやすい素材、バイオマス素材などを活用した容器包装でございますとか、ごみの分別といったことについてしっかり普及啓発をしていくということも含めて、組織委員会と連携しながら取り組んでまいりたいと考えてございます。

次のページをご覧ください。

別紙1という形でつけさせていただいております。「店頭回収等に関する廃棄物処理法上の考え方の整理について」というペーパーでございます。

こちらにつきましては、中間のまとめの11ページのところにこのように記載がございます。ペットボトルやトレーを初めとしたプラスチック製容器包装やその他の容器包装等の店頭回収について、考え方を整理すべきであるという形で御提案をいただいております。これに関しまして、都のほうで廃棄物処理法上の考え方を以下のように整理してまいりたいと考えております。

製造事業者等ということで、販売事業者の皆さんも含めてですが、循環型社会形成推進

基本法で取り組む責務がございます。それに基づいて、事業者の皆さんが製造している事業、販売している事業と密接に関わる場所、例えば販売店のようなところにおいて、リサイクルを目的にみずから製造販売をされたものについて回収をしていくという行為につきましては、製造販売事業の一環であって、これ自体は廃棄物の収集運搬には該当しないという考え方で整理をしていくと考えてございます。

また、その段階で製造事業者等が実際に回収された後には、これを廃棄物として他社に委託をするという場合につきましては、回収をされた製造事業者あるいは販売事業者が排出事業者という形になりますので、品目によって一般廃棄物あるいは産業廃棄物かということになる整理でございます。

なお、区市町村におかれて定めていらっしゃいます一般廃棄物処理計画に沿いまして、区市町村が直接回収をされる。あるいは一般廃棄物処理業者さんが回収をされる。あるいは環境大臣の広域認定を受けた方が回収をされるというものにつきましては、一般廃棄物であるという整理でございます。

次は別紙2をご覧ください。

別紙2は、先ほど都の廃プラスチックの緊急対策という形で御報告をしたものでございます。先ほども御議論がありましたとおり廃プラスチックの15%程度がアジアを中心に輸出をされてきたというところで、中国の廃プラスチック輸入の規制後にさまざまな影響が生じており、都内あるいは近隣県でも不適正処理が発生するおそれがあるということが、中間まとめでも整理をいただいた内容だと思っております。

それを踏まえまして、東京都では不適正処理を未然に防止するために処理実態をしっかり把握をして、情報共有をして、関係者で連携をしながら取り組んでまいりたいと考えてございます。

現在の状況でございますが、次のページのグラフが「日本からのプラスチックくずの輸出量の推移」ということで、最近の2017年の途中から中国の規制が始まって以降の輸出量の推移をグラフにお示しをしております。これまでの審議の中でもお示しをしておりますが、2月のデータが本日公開になりますのでまだ1月までしか入ってございません。こんな状況になってございます。

1月の輸出量が少ないのは貿易実務上のこともあるのかなと考えておりますので、2月のデータを見て傾向がつかめてくると思っております。

さらに処理業者の皆さん、あるいは関連の団体の皆さんにヒアリング調査を行ってございまして、そちらに現在の産業廃棄物の廃プラスチックの状況、マーケットの状況など重立ったところをヒアリング結果の中から記載をしております。

処理料金の値上がりという事態が生じてございます。

廃プラスチックの滞留ということで、グレードの低い廃棄物が行き場を失っていて、不法投棄が起きておかしくないという状況だという御指摘もございます。

処理業者さんの状況ですが、最終処分場が逼迫をしている、あるいは焼却施設でも廃プラスチックだけを入れるとカロリーが高くなってしまいうという状況があると伺っております。

マテリアルリサイクルに関しましても、収集運搬コストがどうしてもかさんでくるのでこの仕組みを変えないといけません。あるいは再生ペレットの国内需要を増やすために、

グリーン調達というものを推進する必要があるという御意見をいただいたりしております。引き続きプラスチックのリサイクルあるいは処理にかかわっていらっしゃる皆さんからのヒアリングをしっかりとやって、動いている状況をしっかりと把握しながら適切に対応してまいりたいと考えてございます。

以上が御報告でございます。

もし、ありましたら御指摘いただければと思います。

○安井会長 ありがとうございます。

早速でございますが、佐藤委員から。

○佐藤委員 まず、別紙1についてなのですが、「考え方の整理（案）」の2番目、「製造事業者等が」というところを私はいいと思うのですけれども、最後の「品目によって一般廃棄物か産業廃棄物かが定まる」の「品目によって」というところはできれば削除していただきたい。なぜならば、店頭回収されたものというのは木とプラスチックの混合物、紙とプラスチックの混合物が非常に多いのです。そうしますと、混合物についてどう考えるかということが国も、自治体も定まっていませんで、相談すると、もともと分別できないようにできているにもかかわらず、金属とプラスチック、紙、木を分けて出してくださいという指導を受けることがあります。店頭回収したものを一般廃棄物の処理計画の中で位置づけるというのは多分難しいと思うのです。そう考えるとここは現実的ではないのです。国の通知でも排出事業者が誰かということは書いてもいいのですけれども、そこから以下はかえって誤解を生むのではないかと思います。

2点目、その次の文章なのですが、そもそも市町村の一般処理計画に従って小売店で自動回収されたということが、市町村の処理計画がないと回収できないのではないかとという誤解を生みますので、これは店頭回収を市町村の処理計画で明確に位置付けて書いてあることはほとんどないと思いますので、ここはちょっと誤解を生むかなと思います。

最後に、これは全部が処理計画に従ってというのが最初にかかるわけですね。実態として広域認定の場合には、店頭回収をしているときには産廃として扱っている場合もあります。この書き方が気になったのですが、ここは御説明いただきたいと思います。

○古澤資源循環推進専門課長 それでは、御説明をさせていただきます。

まず、最後のところの段落なのですが、これは一般廃棄物の広域認定を受けてやっていたらしくるところがありますので、こちらの下例にありますとおりインクカートリッジとか二次電池です。一般廃棄物として広域認定でやられております。それが第9条の9でございます。

市町村が回収をしていたり、一般業者さんが処理しているという例は全国的に見ても極めて少ないだろうなというふうには思うのですけれども、ないわけではないということで記載をしているということでございます。これはどちらかというと、そういうまれな例も含めてしっかりと整理をしていこうという趣旨でございまして、こういったことで広報をしてというつもりではございませんが、御指摘のような誤解を招かないようにしてまいりたいと。表現は注意をしまいたいと思っております。

上のところも同様でございます。実際には、ペットボトルとかトレーはプラスチック関連のものが多くて、そういったものがお店のほうで回収された後、もし廃棄物に当たる場合はですけれども、産業廃棄物として手続をされていらっしゃると思いますので、なかな

か混合物の場合はどうするのかというのは、直ちに結論が出せないところもございますけれども、逆に牛乳パック等でございましたら専ら物という扱い、あるいは有価で売れているところもあろうかと思いますが、廃棄物であれば一般廃棄物かなと考えております。

そういった趣旨でございますので、しっかりこのあたりを丁寧にお話しできるようにしておきたいと思っております。

○安井会長 よろしいでしょうか。

どうぞ。

○佐藤委員 追加させてください。広域認定は、同一業者が一廃と産廃の広域認定の両方をとっている場合が結構ありますので、その点も御配慮いただきたいと思えます。

○安井会長 ありがとうございます。

ほかに何かございましたら、どうぞ、橋本委員。

○橋本委員 同じ店頭回収のところなのですけれども、法律の位置づけとしては、多分こういうことになるのではないのかなと思うのですが、店頭回収の取り組みが進んで、特に紙ごみなどを店頭で回収するスーパーマーケットなども我々の関西のほうでは出てきているのですけれども、自治体が回収する紙ごみというのは減って、自治体の見かけのリサイクル率が下がっていくようなことが実際に起きているのです。そういう間接的な影響も出てくるので、そういうことも考慮、検討していく必要があるのではないかなというのが1点目。

2点目としては、産廃として取り扱うほうは、産廃の量として把握できるという整理になるかと思うのですけれども、事業系一廃については現状で処理されているものは自治体が収集しているので一廃の統計に載ってくるのですが、再資源化されているとどこのデータにも載ってこない値になってしまって、循環利用の実態がわかりにくくなっていくという前者の話ともリンクするのですが。そういう点もあるので、取り扱い上の整理としてはこれでこうなるのではないかなと思うのですけれども、実態の把握としてどういう整理をするのがいいのかということについて、ちょっと検討が必要なのではないかなと思っております。

6 ページの廃プラのマテリアルリサイクルの現状のところなのですけれども、排出事業者が分別して排出しても少量ごとの量になるので、収集コストの関係からリサイクルが難しいというのはいろいろなところで課題になっているかと思うのですが、そういう意味で東京都がどういう指導をされているかは存じ上げないのですけれども、相積みをして、小ロットの量をちょっとずつ集めて回るようなことを推進したり、あるいはそのために計量器付きのパッカー車への補助金を出したり、あるいは分別して収集できる車両に対する補助金を出したりという形で推進することも検討いただければと思います。

以上です。

○安井会長 もし、何かあれば、よろしいですか。

どうぞ。

○古澤資源循環推進専門課長 今、御指摘の点なのですけれども、もちろん今後考えていかなくはないということで御指摘をいただいたのだと思います。一般廃棄物もそうなのですが、これからプラスチックの新たなビジネスモデルで、民間企業の皆さんも含めていろいろな形でリサイクルが進んできたときに、市町村で押さえていらっしゃる一般廃棄物

の統計には、それがなくなってこなくなるというところの御指摘だと思います。このあたりは廃棄物処理計画にも係る議論だと思いますけれども、そういうものがふえてくればますますそうなってくると。

かといって、その数字の御報告をいただくという制度になりますと、これは民間事業者さんの取り組みをかえって阻害してしまうということにもなりかねないと思いますので、そのあたりはいろいろ工夫をしていかなければならないと考えております。また、今御指摘の収集運搬をどうしていくのかということについても処理業界の皆さんも含めて、いろいろな御議論が工夫をしていかななくてはいけない課題だと認識をしております。

○安井会長 ありがとうございます。よろしいですか。

齊藤委員、お願いいたします。

○齊藤委員 処理業者のヒアリング調査に関連して、幾つか教えていただきたいことがあります。中国に輸出されていたものが産廃ルートに乗ってきたということで、量がふえたということで、それで処理要件が上がったということは何となくわかるのですが、これは処理要件が上がったことに伴って、何か影響というか変化が生じていないのかなというのが1つ。

2点目としては、【廃プラスチックの滞留の状況】というところの最初の○の最後のところで、「グレードの低い物が、行き場を失っている」ということなのですが、これは最終的にどうなっているのかというところです。

あとは、最後、3つ目なのですが、【マテリアルリサイクル】の現状というところで、先ほど橋本委員も指摘されていたように、その収集運搬の仕組みを変えないとマテリアルリサイクルは進まないということなのですが、現状として、どのぐらいマテリアルリサイクルをされているのかという情報があれば教えていただきたいと思います。わかる範囲で結構です。お願いします。

○安井会長 では、お願いします。

○古澤資源循環推進専門課長 産業廃棄物のマーケットで流れている部分について、統計的な部分はともかく、生の声というか実態というのはなかなか統一的な情報にはなっていないと考えています。それがゆえに、このような形でヒアリングをしながら状況をつかんできているというところがございます。ただ、これもヒアリングでございますので、あくまで対応してくださった方の御意見ということでございますので、それをそのままという形ではなくて、広く情報収集をしながら今、先生から御指摘があったようなところも含めて、実態をできる限り押さえてまいりたいという趣旨のものでございます。

今の御指摘のところなのですが、産業廃棄物のプラスチックに関して、処理費が多くのところでは値上げされているというのもございますし、それが排出企業さんのところでの処理費にも反映されてきていると思います。ただ、行き場を失っている部分、グレードの低いもの、例えば焼却施設に入っていたようなものはじき飛ばされてみたい御指摘をいただく場合も多々ございます。全体でそれがどうなっているかということについて、我々としても押さえきっているわけではございません。

○安井会長 それでは、田崎委員、お願いします。

○田崎委員 2点指摘させていただこうと思います。

1点目は、先ほどの別紙1なのですが、店頭回収の整理ですが、もともとのあり

方について議論してきた話からすると、店頭回収をどう進めていくかといった場合に、この整理で店頭回収が進むかという、そうなるようには思えない内容になっているかと思っています。ただ、整理は整理で必要だというのも一方で理解しています。

ですので、あくまでもこれは現状の整理であって、今後の回収モデルのいろいろな検討をする際には、必ずしもこういう整理に基づかない、例えば自治体との協定を結んで回収した場合に、それを一般廃棄物に認定するとか、もっと法律の改正を考えた上でどういうスキームが組めるかといった意味で、新しいスキームを考える上では、必ずしもこの整理に基づかないということは方向性として保っていただきたいと思います。

2点目が本日の参考資料の中に書いてある12ページ目の海ごみ発生抑制において、清掃活動ないしは清掃活動を通じた環境教育などの活動に資金が集まるような仕組みを検討すべきであると書いてあるのですけれども、それに対する実施事項が今回の資料3の中には書かれていない状況です。そこについては、ぜひともきちんと検討していただくようお願いしたいと思います。

以上です。

○古澤資源循環推進専門課長 今の御指摘で、中間まとめいただきました御指摘、あるいは今後中間答申なりの形でいただく御指摘について、もちろんしっかり受けとめて、施策の検討をしてみたいと考えてございます。本日お示ししておりますのは平成31年度予算という形で、取り組みの確定をしております事業ということで御紹介をさせていただいております。

店頭回収につきましては、もちろん法令の解釈だけで進むということではございませんので、いろいろな関係事業者の皆さんとのコラボレーションというものがこれから必要になってくるということでございます。あくまでその一つの前提という位置づけでございます。

○安井会長 ありがとうございます。

それでは、鬼沢委員、お願いいたします。

○鬼沢委員 ちょっと教えていただきたいことがあるのですけれども、別紙1の店頭回収とは直接関係ないのですが、学校給食の牛乳パックを配達した事業者さんが今までちゃんと回収していたものを最近できないという声が多く出てきていて、東京都がどうなのかを知りたいのですが、今は全国で結果的に燃やされている方向になりつつあって、やはりそれは問題なのではないかという声が多く聞こえてくるのです。東京都の場合はそういった声は出ていないのでしょうか。

○古澤資源循環推進専門課長 そういった形で、東京都内で大きな声としてはまだ届いておりません。牛乳パックにつきましては、容器包装リサイクル法との関係もあるのかなと思います。容器包装リサイクル法でも紙製容器包装について、紙に関してはサーマルもありという形の現行法になっているということもあるのかなと思いますが、学校給食の関係では、そういった形で我々のところにはまだ情報が届いておりません。

○安井会長 よろしいですか。

次はこちらで、関連していたらあれですけれども、大丈夫ですか。

○安井会長 宮脇委員。

○宮脇委員 別紙2あたりの都の廃プラの対策についてということで、非常にヒアリング

とかをやっていただいて、よく声を集められているのだろうなと思ったのですが、一般的にマスコミ等で流れている内容と基本的には同じかなというところで、やはり都のような形で具体的に調べられても全く同じような意見が出ているなというところで、ちょっと気になってというか、そうすると、これは結構正しいのではないかということで、グレードの低いものは資源化ができないので、焼却か埋め立てかというところなのですが、埋め立ても難しくなっている。焼却もなかなか大変だという意見とすると、もちろん廃プラは基本的に民間のものなのですけれども、民間関係、経済ベースで動かないとすると、最終的には都としてどんなところを目指されるのかなと。もし何かあれば。

別紙2の下のほうを見ると、状況の把握を大分されてきて、これから情報共有もいろいろな事業者さんと関係者と連携するのだと書いてあるのですが、具体で言うと埋立地も実際にほとんどないですね。焼却炉も現状では間に合わないですねということが何となくヒアリングでも大分わかってきてしまうと、都としては、あとはどんなことができるのかなというのを何か考えていられればということです。

○古澤資源循環推進専門課長 もちろん緊急的には生じてきている状況については、まだ完全に情報をつかみ切っているとも思っておりませんので、引き続きそこはしっかりつかんでまいりたいと言った上での判断ということになるかと思えます。ただ、審議会で御議論いただいている大きな方向性をしっかり見据えつつ対応していく必要は当然あると考えておりますし、そういった中では、排出企業のところでどこまで分別ができるのだろうということも含めて、関係の業界の皆さんといろいろ情報交換をしてみたいと思っております。

○安井会長 ありがとうございます。よろしいですか。

今の話は重要なのですけれども、多分答えは一つしかなくて、排出側ではなくてインプット側を変えるしかない。それをどうするかなのだと思えますよね。

それでは、どういう順番だったかな、江尻委員が先だったか、ちょっとわからなくなっていますけれども、いいですか、蟹江委員が先かもしれない。

○江尻委員 どうぞお先に。

○蟹江委員 済みません。お先に。

資料3のところの中間まとめとの関連でいろいろ書かれているのですが、私、今中間まとめにこの項目がないなと思ったのですけれども、「国際的な連携」はあるのですが、国内の連携というのがないなということに気づきまして、パブコメの中でもたしかあったと思うのですけれども、神奈川が脱プラ宣言をしていて、結構いろいろなことをやろうとしていて、私もいろいろ相談に乗ったりしているので、例えば国内の神奈川と都の連携、神奈川も東京も大きいところですのでやりにくいところもあると思えますが、多分スケールメリットを生かせるような領域というのも結構あって、散乱防止のところでは特に一緒にできるところも多いと思えますので、ぜひそういったことを今後やっていただきたいと思います。

もう一つ、同じく資料3のところの東京2020大会のところですが、組織委員会に働きかけというのはもちろん大事だと思うのですが、私のこれまでの経験からも組織委員会は働きかけてもなかなか動きそうもないので、ぜひ都のほうが主導でいろいろやると。結局オリンピック・パラリンピックが終わっても、組織委員会はなくなりますけれども都

は残るので、むしろ都が組織委員会を動かすぐらいの施策をつくってってもらいたいと思います。ワンウェイ・プラスチックの話などもぜひ都主導でやっていただきたいなと思います。

○安井会長 そういうことで、何かお答えがあればいいですけども。

○古澤資源循環推進専門課長 今回の他の自治体との連携というところは、まさにおっしゃるとおりで、本日のこの表には記載が漏れておったというところなのでございますけれども、首都圏の1都3県と政令指定都市で構成しております九都県市首脳会議のほうでも、当然プラスチックの関連というのは大きなテーマになっておりまして、連携をしながら取り組んできているというところがございます。引き続きそこはしっかり連携をとりながらやってまいりたいと思っております。

大会の関連につきましては、東京都の予算の中でも、レガシーにつながるような取り組みの予算化をしてきているというところがございます。

○安井会長 それでは、次、江尻委員、どうですか。

○江尻委員 同様に資料3にございます紙ストローの件なのですけれども、市町村、消費者団体の方たちは紙ストローに関しての関心が非常に高く、都庁内で紙ストローを試行しているということに関しましての情報提供とか、状況がどんなものだったのかということを知りたがっているということをよく聞きますが、どんな状況だったのかを教えてくださいなと思っております。

○安井会長 もし情報があれば。

○古澤資源循環推進専門課長 この紙ストローのテストは都庁内でお店をしていらっしゃる事業者さんの御協力をいただきまして、昨年10月に実施をしたものでございます。もちろん紙ストロー自体がさまざまな技術開発も並行して進んでおりますので、その時点のものからさらにいろいろなもの、新しい技術が出てきているというのが現状ではないかなと思っております。

昨年10月の時点でテストをしたという範囲で申し上げますと、やはりカフェのアイスコーヒーとかでふたがついていて、ふたのところは十字型の切れ込みが入っているようなタイプの場合には、そこで紙ストローが固定をされてしまう、動きがとまってしまいますので、どうしても上で動かすと力がかかって、紙ストローが弱くなってくずれてしまうという傾向がありましたが、逆にそうではないガラスのコップの場合には余り影響がないと。紙ストローも使い方次第で結果が異なってきているという状況であったと理解をしております。

○安井会長 ありがとうございます。

続きまして、福留委員、お願いします。

○福留委員 別紙2のところで、マテリアルリサイクルがなかなか進まない、あるいは比較的グレードの低いものが行き場を失っているということについてですが、そもそもごみのリサイクルをするときに、ケミカルリサイクルへ回す前に、先にマテリアルリサイクルに回すという現状になっているという話も聞いております。

ケミカルリサイクルは、もちろん受け入れ側の設備の条件や、プラスチックの種類を選ぶケースと選ばないケースがあるという話なども聞いてはいるのですが、一方で分別をしなくても処理ができるというメリットもあるとのこと。この中間取りまとめの報告書

の中の4ページのところにも、リサイクルに占めるケミカルの部分は非常に少ないということもありますので、行き詰まるような問題、課題が出てきた現状においては、ケミカルリサイクルの活用なども含めて、中間とりまとめでも書かれていますが、リサイクル全体でどういう方法があるかというのを見直す時期に来ているのではないかなと思います。

○安井会長 もし、ございましたら。

○古澤資源循環推進専門課長 今回の御指摘なのですけれども、容器包装リサイクル法の場合には、材料リサイクル優先落札という仕組みがあるのですが、実際には、産業廃棄物に関しましてはそういったことがございませんので、メインの流れとしては、例えばRPF化といったルートに流れている量のほうが多いかなと思っております。マテリアルリサイクルに行っている部分は産業廃棄物ですと、物によって全然違いますので均質なものが出る場合、オフィスビル等で雑多なものが出る場合でまるで違うのですけれども、雑多なものについてはマテリアルリサイクルが極めて難しいのが現状だろうと思います。

マテリアルリサイクルがされているもので、例えば新築工事のときの塩ビ管の端材のようなものは関係の業界の皆さんの御努力下、マテリアルでリサイクルをされていたりというところがありまして、この辺は千差万別でございます。ケミカルのほうも鉄鋼とかはあるのですが、その受け入れ条件を満たしながら産業廃棄物のルートで行っているものはまだまだ少ないのかなというのが現状だろうと思います。その辺も含めて全体の問題解決を図っていかねばならないのだろうと考えてございます。

○安井会長 私見ですけれども、はっきり言って、ケミカルリサイクルというのはリサイクルではないです。今のRPFも最終的にはフューエルなのですよね。だから、ケミカルリサイクルが本当にリサイクルかという議論からやり直さないとだめかもしれない。そのぐらいのものだと思います。それはなかなか難しいのですけれども、一遍やっても悪くはないなという議論だと思います。

佐藤委員、お願いします。

○佐藤委員 1点は、別紙1の店頭回収の考え方の整理なのですが、前提として、企業が廃棄物の3RのCSR活動、あるいは循環資源として店頭回収をするということを、東京都としては推進するという方針の一文があったほうがわかりやすいと思います。

もう一つ、先ほどの現在あふれているプラスチックのリサイクルをどうするかというお話なのですが、私が最近呼んだ『循環経済新聞』のトップ記事が市町村の焼却炉で産廃のRPFを重油のかわりに燃やすことを環境省が認めたみたいな記事がありました。詳細な内容は分かりませんが、産廃のRPFをつくっても、どこで受け入れ先が限定されています。一般廃棄物で化石燃料代替として、RPFを使うことというのは東京都として聞いたことがあるか伺いたいのです。

○古澤資源循環推進専門課長 RPFに加工されました後は、産業廃棄物か一般廃棄物かということではなくて、燃料、商品として流通をしているものだと思います。ただ、RPFの需要自体が落ちてきているという御指摘があるのも存じております。その需要先として、今御指摘のようなものがあり得るのかどうか、我々のほうで具体的話としては承っていません。また、環境省のほうでは、品質を満たしたものについて輸出の道も開くという形で伺ってはおります。

○安井会長 福留委員は、まだございますか、よろしいですか。

そういうことで、大体一通り終わりましたか。

非常に効率的にいろいろな御意見をいただけて、ありがとうございました。

こんな年で言うのもあれなのですが、大局観を言わせていただくと、やはり2015年というのは人類にとって大転換の年だったのです。今はそう思います。これを100年オーダーの歴史で見ても絶対そうだと思います。要するに、ありとあらゆるものが転換期に入ってしまったのだと思いますよ。一番の基本は地球がぶっ壊れるという話なので、これはそうせざるを得ないわけで、そうなってくると、本当に100年ぐらいの歴史で物を考えるという考え方にしないとだめかななんて最近はつくづく言っております。先が短い私が言ってもしょうがないのですけれども、実際子供たちのために、それをやらなければいけないのだろうなという気がしておりますという本日最後のまとめでございます。

そういうわけでございまして、今、いろいろと御議論をいただきましてありがとうございました。

それでは、これにて藤井課長に締めをやっていただいて、局長の御挨拶に行きたいと思っております。お願いします。

○藤井計画課長 本日は、年度末の本当にお忙しい中、貴重なお時間をいただきまして、大切な、さまざまな御意見を頂戴いたしました。にもかかわらず、本日は事務局のほうで資料の配付に関して大変不手際がございました。その結果、審議に重大な支障を来してしまったことを改めておわび申し上げます。大変失礼いたしました。今後はくれぐれもこういったことがないように、さらに緊張感を持って、事務局として対応させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

次回以降の話を先にさせていただきます。既に委員の方には紹介させていただいてございますけれども、4月中に次の総会を開かせていただければと考えてございます。先ほど古澤のほうからも申し上げましたけれども、後に配付させていただきました1月17日付の中間まとめで、パブコメの意見とともに本日いただいた貴重な意見を踏まえて、事務局のほうで中間答申の案を次回の総会でお示しいたしまして、できましたら中間答申の案について御議論いただいて、中間答申という形で諮問に対する答申という形で頂戴いただければありがたいかなと考えてございます。そういったスケジュールで予定させていただいておりますので、引き続きどうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

最後に、環境局長の和賀井から御挨拶させていただきます。

○和賀井環境局長 初めに、今、藤井からもお話がありましたけれども、本日は資料に再三不手際がございまして、まことに申しわけございませんでした。にもかかわらず、安井会長を初め、委員の皆様から大変御熱心な御議論をいただきまして、ありがとうございました。本日の御議論を踏まえまして、今、話がありましたように、速やかに答申案を作成してまたお諮りしたいと考えてございます。

本日の議論の中でも散乱ごみの話が結構話題に上っていらっしゃいましたけれども、実は先日、3月16日に葛西臨海公園でスポーツごみ拾いというイベントをやりまして、要は3～5人ぐらいの幾つかのチームに分かれて、時間を制限して、海岸に落ちているプラスチックごみを初めとするさまざまなごみを競って集めてくると。約1時間ということなのですが、そういうイベントがございました。私も参加したのですが、実は原田環境大臣も参加されまして、大変熱心にごみを拾っていただいたのです。原田大臣も非常に関心

を示していただいて、今度の6月のG20サミットでこのイベントをぜひ世界に発信したいというお話をいただきました。

こういう形で、本日の会議の中でも教育ですとか意識啓発というお話も出ましたけれども、そのイベントも半分以上はお子さんが参加をされていまして、ごみというのも海岸を見ると砂浜にはほとんど落ちていないのです。よく見ると、プラスチックの破片みたいなものが見つかるのですけれども、貝殻と紛れて非常にわかりづらいと。ただ、岩場に行くとペットボトルですとか弁当がら、レジ袋というものがそのまま落ちているということで結構集まりまして、私も30分ぐらいしかやっていなかったのですけれども、ペットボトル3本に、レジ袋が数枚、弁当がら等々を拾いまして、結構環境局チームは健闘したのです。

それはさておいて、そういうイベントも含めて、今後子供に向けての意識啓発ということに取り組んでまいりたいと思います。いずれにいたしましても、今後とも答申に向けて活発な御議論をいただければと思います。本日はありがとうございました。

○安井会長 それでは、これで閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。